

<幼稚園教育>

互いのよさに気づき、協同して遊ぶ子の育成

～発達に即したごっこ遊びを通して～

うるま市立田場幼稚園 教諭 仲 村 潮 里

I テーマ設定の理由

近年、少子化や核家族化などにより、人間関係が希薄化し、他者とのかかわりが苦手な子や、子どもたちを取り巻く環境の変化から、受動的な遊びが増えるなど、子ども同士が直に触れ合い、刺激し合いながら育ち合える環境が減少してきている。

幼稚園教育要領の「人間関係」内容の取り扱い(3)において、「幼児が互いにかかわりを深め、協同して遊ぶようになるため、自ら行動する力を育てようとするとともに、他の幼児と試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにすること。」と示されている。

平成17年文部科学省中央教育審議会答申の中でも、「少子化、核家族化が進行し、子どもどうしが集団で遊びに熱中し、時には葛藤しながら、互いに影響し合って活動する機会が減少するなど、様々な体験の機会が失われている。」と示されている。このことから、幼稚園では、幼児が試行錯誤しながら葛藤体験を乗り越え、集団の中で一人一人のよさが発揮され影響しあって、一人ではできないことも力を合わせれば可能になるという気持ちが育つようにすることが求められている。

本学級の幼児は、進んで好きな遊びに取り組んだり、友達にかかわったりする子もいるが、集団での遊びが苦手な一人遊びが好きな子や、なかなか自己発揮できずに教師や友達について遊ぶ子、友達の気持ちがくみ取れずに口論になってしまう子があり、人とのかかわりの経験の違いにおいても、個人差が大きい。

4月からの学級でのごっこ遊びにおいても、それぞれが自分のやりたいように進めてしまう様子や、遊びに入れずに傍観する子、集団での遊びに興味を示さない子がいるなどの課題があった。その課題解決のために、幼児が興味のある事象をごっこ遊びに取り入れられたり、遊びの中での幼児の気づきや、困ったことを話し合い活動で取り上げたりするなどの援助を行ってきた。しかし、幼児が友達のよさに気付くような援助や、協同する遊びが広がるような援助が十分ではなかった。

そこで、本研究では、学級の幼児の発達段階を捉え、その発達に即したごっこ遊びの中で、幼児が互いのよさを認め合えるような援助の工夫や、幼児が協同して遊びたいような遊びの工夫を行うことで、幼児が互いのよさに気づき、協同して遊ぶことができるようになるのではないかと考え、本テーマを設定した。

II 研究目標

学級の幼児の発達に即したごっこ遊びを通して、幼児が互いのよさに気づき、協同して遊ぶための援助の方法を研究する。

III 研究仮説

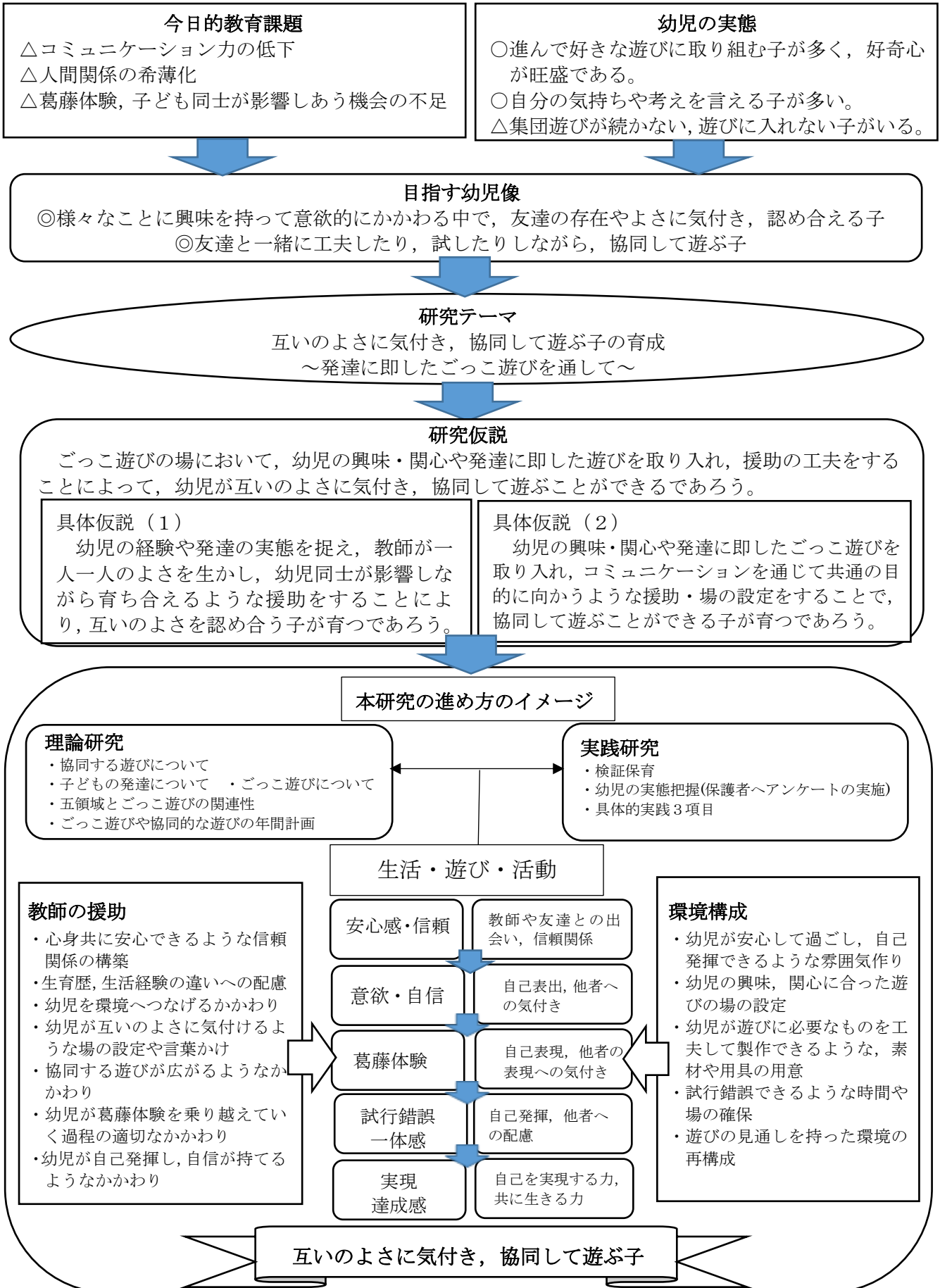
1 基本仮説

ごっこ遊びの場において、幼児の興味・関心や発達に即した遊びを取り入れ、援助の工夫をすることによって、幼児が互いのよさに気づき、協同して遊ぶことができるようになるであろう。

2 具体仮説

- (1) 幼児の経験や発達の実態を捉え、教師が一人一人のよさを生かし、幼児同士が影響しながら育ち合えるような援助の工夫をすることにより、互いのよさを認め合う子が育つであろう。
- (2) 幼児の興味・関心や発達に即したごっこ遊びを取り入れ、コミュニケーションを通じて共通の目的に向かうような援助・場の設定をすることで、協同して遊ぶことができる子が育つであろう。

IV 研究の全体構想図



V 理論研究

1 「協同して遊ぶ」について

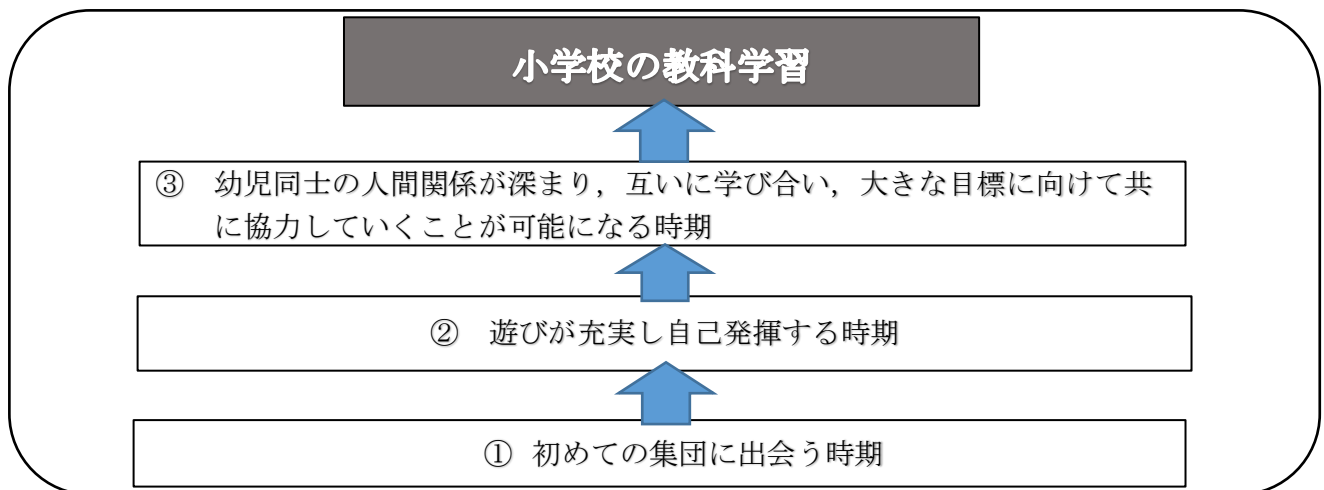
(1) 「協同する経験」の教育的意義について

幼稚園教育要領解説において「協同する経験」については、領域「人間関係」の内容(8)「友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする」及び、内容の取り扱い(3)「幼児が互いにかかわりを深め、協同して遊ぶようになるため、自ら行動する力を育てようとするとともに、他の幼児と試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにすること」と示されている。

国立教育政策研究所教育課程研究センターの『幼児期から児童期への教育』では、「幼児期の教育において最も大切なことは、幼児一人一人の自発性を育むことである。このような自発性は、他者との協同性が育つ中ではぐくまれていく。」と示されている。さらに、幼稚園での幼児の発達と協同的な学びについて3つの段階に分けており、図1の③の段階における「協同的な学び」が小学校における教科等の学習に引き継がれるとも述べられている。

このことから、生涯の人間形成の基礎を培う幼児期にこそ、「協同する遊び」を通して、友達が好きになる、友達と仲間になる、友達と育ち合うという経験を重ねていくことが重要であると考えられる。

図1 幼稚園での幼児の発達段階と「協同的な学び」



出典：おおまめうだひろとも大豆生田啓友 編著 『「子ども主体の協同的な学び」が生まれる保育』 2015

(2) 協同性を育てる視点

「協同して遊ぶ」とは、幼児が共通の目的を見だして、それをイメージしながら作業を分担したり、協力したり、粘り強く取り組むことである。

幼稚園教育要領解説領域「人間関係」内容の取り扱い(3)で、幼児が協同して遊ぶようになるためには「幼児が試行錯誤しながらも一緒に実現に向かおうとする過程、いざこざなどの葛藤体験を乗り越えていく過程を大切に受け止めていくことが重要である。」と示されている。

以上のことを踏まえ、協同性を育てるための教師の援助の在り方を、国立教育政策研究所教育課程研究センターの『幼児期から児童期への教育』の「協同性を育てる視点」を参考に、表にまとめた。

表1 協同性を育てる視点と教師の援助

協同性を育てる視点	教師の援助	期待する子どもの育ち
(1) 幼児同士の交流が自然に生まれてくる環境を構成する	教師はトラブルが起きることを恐れず、幼児が思う存分自分を出し切って他の幼児にかかわっていくことを援助する。	他の幼児に受け入れられたり、受け入れたりする経験をし、自分と他者が生き生きできる関係性をつくり出す。
(2) 少人数での活動を大切にする	仲間と一緒に活動することで自我の感覚が強められ、自分独自の世界を追求できる。その姿を認め、少人数での活動を温かく見守り、適切な援助を行う。	自分の世界が受け入れられる喜びや、はねつけられても何とか理解してもらおうとする心が育つ。
(3) 学級全体で活動する	少人数での活動を大切にしながらも、学級全体で行う活動へ幼児を誘う。幼児が学級全体の中での一つの役割を自然に担えるような工夫をする。	グループでは親密なかかわりを、学級全体では、小さなグループでは味わえない集団的な遊びの楽しさと、醍醐味を感じ取ることができる。
(4) こだわりを追求し、知的な広がりのある協同的な活動を行う	幼児のこだわりをよく理解した上で、幼児と対話しながら、幼児がそのこだわりを深めていけるような援助をする。知的な刺激を一方向的に与えるのではなく、幼児が教師からの刺激を、幼児同士で協同して生かしていけるよう援助する。	素材へのこだわりや、「こんなものを作りたい」というこだわりを実現しようと、仲間と協同して試行錯誤できるようになる。
(5) 学び合いや話し合いを援助する	幼児が展開する様々な遊びや活動において、他の幼児をよく見てみるよう促したり、互いに各自のやり方を見せ合ったりする等、幼児同士の学び合いが自然に起きてくるような援助をする。発生したトラブルについて、話し合いを促す援助も大切である。	話し合いを通して、新しいアイデアを思いついたり、自分の感情を静めたりしていく経験を豊かにもつことが、幼児期の協同性の質を高める。
(6) 異年齢との学び合い	異年齢児へ何かを見せたり教えたりする経験や、異年齢児の活動や振る舞いに憧れるような場を設定する。	異年齢児と共に活動し、他者とかかわる新たな喜びと自信へつながる。また、異年齢児から学んだり、学んだことを遊びに取り入れたりすることで同年齢での協同的な活動の質が高まる。

2 子どもの発達について

(1) 発達のとらえ方

幼児期の発達について、幼稚園教育要領解説序章第2節1-(2)では、「自然な心身の成長に伴い、人が能動性を発揮して環境とかかわり合う中で、成長に必要な能力や態度などを獲得していく過程」と示されている。また、発達の「適時性を考えることは、幼児の望ましい発達を促す上で、大切なことになる。」とも示されている。

このことから、幼児が生活する姿の中には、幼稚園において、幼児の発達の特性を十分に理解して、幼児の発達の実情に即応した教育を行うことが大切であると考ええる。

(2) 発達を促すための教師の役割

国立教育政策研究所教育課程研究センターの『幼児期から児童期への教育』の中で、幼児期は「知的にそして情緒的にも、また人間関係の面でも大きく成長し発達する時期である。」と示され

ていると共に、「幼児期を通して、幼児同士の関係の中から互いに協力することを覚え、その協力し合う関係を生かして、一人ではできそうもないことにも取り組んでいく。こうした発達を支えるのが幼稚園の教師である。」と説かれている。また、保育所保育指針解説書でも「子どもが自ら発達していく力を認め、その姿に寄り添いながら、子どもの可能性を引き出していくことが大人の役目である。」と、保育者の役割を位置づけている。

さらに、無藤隆(2012)は「子どもたちは、大人との関係を元にして、子ども同士での相互の関わり合いを持つようになる。乳児においても、他の子どもの存在に気付き、意識して行動する。相手に接近したり、相手の行動を模倣したりすることが始まる。」と述べている。

以上のことから、教師自身も環境の一部(人的環境)としてモデルとなり、物的環境へのかかわりを示したり、一人一人の心身の現状を把握し、安心感や安定感を持つような援助をしたりすることが求められると考える。また、子どもにとってよりよい環境(=自らかかわりを持ちたくなり、行動したくなるような環境・幼児同士がかかわり合うことのできる環境)を構成していくことも、子どもの発達を促す教師の重要な役割だと考える。

(3) 遊びの発達について

乳幼児期における遊びの本質について、幼稚園教育要領解説第1章3-(2)では、「人が周囲の事物や他の人たちと思うがままに多様な仕方で応答し合うことに夢中になり、時が経つのも忘れ、そのかかわり合いそのものを楽しむことにある。すなわち遊びは、遊ぶこと自体が目的であり、人の役に立つ何らかの成果を生み出すことが目的ではない。」と説かれている。

また、無藤は『発達の理解と保育の課題』において、遊びの働きを以下のように示している。

- ① 認知面・言語面・情緒面・コミュニケーションスキルなどの発達を促すとともに、体力の増進、身体の発育につながる。
- ② 自由な自己表現の機会となり、心理的抑圧を解消できる。
- ③ 遊びを通じて現実の世界を再構成する。
- ④ 対人関係やコミュニケーションにより社会性の発達を促進する。

さらに、無藤は、M.パーテン(1932)の「遊びの形態とその発達の变化」をまとめている。その内容を以下の表に示す。

表2 遊びの形態とその発達の变化

遊びの形態	発達の变化
① 遊ばずにぼんやりしている	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="margin-right: 10px;"> <p>2～5歳までに出現する割合が最も高い。</p> <p>加齢とともに増加。</p> </div> <div style="font-size: 2em; margin-right: 10px;">}</div> <div> <p>2～4歳の加齢とともに減少。</p> </div> </div>
② 他児を見ているが、遊びには入らない「傍観」	
③ 他児と同じ場所で自分だけで遊んでいるが、同じようなことをしている「平行遊び」	
④ 他児と一緒に遊び、活動について会話ややりとりがある「連合遊び」	
⑤ 一定の目的のために協力や役割分担などがある「協同遊び」	

以上のことから、幼児の姿に添い、発達に即した援助をすることや、様々な側面の発達を促すような遊びの形態を計画的に構成していくことが必要だと考える。

3 ごっこ遊びについて

(1) ごっこ遊びとは

保育内容・言葉(2015)では、ごっこ遊びとは、「子どもが日常生活での経験から印象的なことを、『〇〇のつもり』になって模倣し、再現する遊びである。」と、示されている。ごっこ遊びの基礎となるイメージする力は、1歳半頃つくといわれている。それまでは、探索活動により、周囲の興味のある物の性質や扱いなどを知り、状況に応じて適切に使用できるようになっていく力と、そのものを他のものに見立てて活用する力が育まれる。探索・探求活動が、見立て・つもり遊びとなり、ごっこ遊びへと発展していく。

ごっこ遊びは年齢とともに充実していき、3歳以上児になると、子ども同士がイメージを共有して、それぞれが役割を持って遊びを楽しむことができるようになる。また、ごっこ遊びはコミュニケーション能力、役割取得能力、自己コントロール能力など、多様な社会的能力を駆使して行う高度な遊びであるといえる。(神谷, 吉川 2011)

(2) 発達に即したごっこ遊びについて

保育所保育指針解説書(2008)では、「子どものさまざまな発達の側面は0歳からの積み重ねであることや実際の保育においては、養護と教育の一体性及び5領域の間の関連性に留意することが必要である。」と示されている。ごっこ遊びにおいても、0歳からの発達の連続性のなかで徐々に獲得し、準備されていくものであると考える。

ピアジェの発達理論は、子どもの思考の発達を理論化したものとして知られている。ピアジェによると、幼児期全体は前操作的段階と呼ばれ、次の2つの段階に分けられる。

表3 ピアジェの思考発達段階

Ⅰ期	0歳～ 2歳	感覚運動的段階	感覚と運動とを組み合わせることで、外界に対応していく時期。この期の赤ちゃんは、吸う、なめる、触る、つかむ、叩く、見るなどによって外界を知る。		
Ⅱ期	2歳～ 7歳	前操作的段階	2歳～ 4歳	象徴的思考段階	表象が形成され、見ていたものが隠されてもそれがなくなるわけではないというものの永続性が理解される時期。この時期の子どもは目の前にないものを思い描くことができ、母親が見えなくてもやがて戻ってくるとわかって待てる。ごっこ遊びをする。
			4歳～ 6・7歳	直観的思考段階	見た目に左右された考え方をし、背後にある本質には考えが及ばない時期。この時期の子どもは、細いコップの水を太いコップに移すと水の量は増えたと考ええる。水位が下がったり上がったりしたという、見た目に左右されてしまう。また、位置によって、他の人からの見え方と自分の見え方が異なることを理解していない。
Ⅲ期	7歳～ 11歳	具体的操作段階	具体的事物や活動に助けがあれば、見た目に左右されずに考えることができる時期。この時期の子どもは、コップの形に左右されずに、移し替えられた水は水位が変わっても水の量がかわらないこと(保存の概念)がわかる。		

Ⅳ期	11歳～	形式的操作段階	理論的な思考ができる時期。この時期の子どもは、頭の中で1つずつ考えて具体的操作を確かめるだけでなく、ことばだけで考えることもできる。
----	------	---------	--

出典：無藤隆 編著 『発達理解と保育の課題』 2012

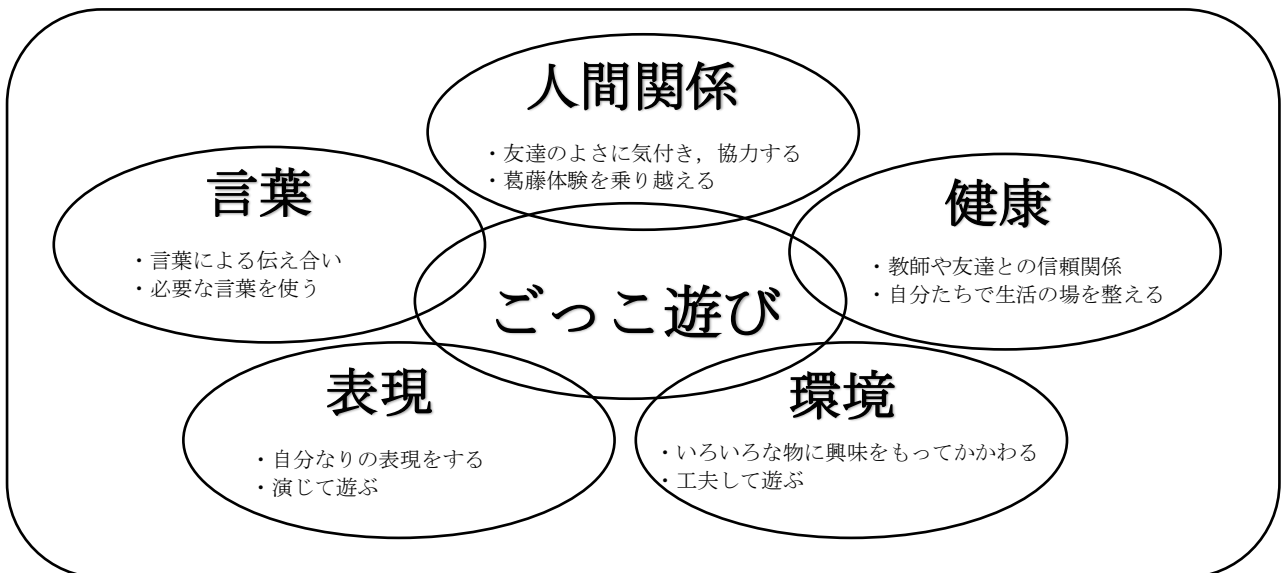
無藤は幼児の特性として「イメージの世界では、いくつかの事物を同時に思い浮かべたり、出来事の時間的順序や事物の空間的配置などを思いのままに並べ替えたりして想像することができる。したがって、子どものごっこ遊びや絵の中のお話に空間的・時間的広がりも出る」と述べている。また、今井和子(1995)は「ふり遊びやごっこ遊びの中でもさかんに、自分が思い浮かべた未知のことをことばで表現することが多くなっていくのがこの時期である」と述べている。

以上のことを踏まえ、前操作的段階におけるごっこ遊びにおいて、教師は子どもなりの表現をしっかりと認めるとともに、子どものイメージを言葉にして引き出したり、教師も一緒に遊ぶことにより、幼児個々のイメージを幼児同士が共有したりできるような援助を行う必要であると考ええる。

(3) 5領域とごっこ遊びの関連について

幼稚園教育要領解説第一節「幼稚園の基本」3-(2)②総合的な指導において「幼児期には諸機能が個別に発達していくのではなく、相互に関連し合い、総合的に発達していくのである。」と示されている。ごっこ遊びには、5領域全てのねらいと内容に深くかかわりがある。このことから、5領域の「人間関係」のみの発達や指導だけでなく、図2に示すように、ごっこ遊びを通して総合的な発達を促すことができるよう、幼児期の教育全体を視野に入れながら、総合的に指導していくことが大切であると考ええる。

図2 5領域におけるごっこ遊びとの関連



4 協同的な遊びやごっこ遊びの年間計画表

国立教育政策研究所教育課程研究センターの『幼児期から児童期への教育』の理論や、本園における目指す幼児像を踏まえて、以下のように年間計画を作成した。

期	I期(4・5月)	II期(6～8月)	III期(9・10月)	IV期(11・12月)	V期(1～3月)
幼児の発達の筋道	・好きな遊びや教師とのかかわりを通して園生活に慣れ、安定する。	・気の合う友達とかかわりながら遊びを広げていく。 ・環境に働きかけ、いろいろ試みながら経験を広げていく。	・仲間意識が芽生え、友達と共通の目的に向かって遊びや活動に取り組むようになる。	・幼児同士の間関係が深まり、互いに学び合い、大きな目標に向けて協力していく。	・友達同士で目的を持ち、大胆な遊びで充実する。 ・知的好奇心が旺盛になる。
ねらい	・入園を喜び、教師や友達と好きな遊びを楽しむ。	・友達と共通のイメージを持って遊び、集団で取り組む楽しさを味わう。	・友達のよさを認め、考えを出し合い協力しながら遊びを進め、充実感を味わう。	・友達と共通の目的に向かい、遊びや生活を進める楽しさを味わう。	・個々の力を十分に発揮し、自分たちが園生活や遊びを進め、充実感を味わう。
活動内容	・好きな遊びや居心地の良い場所を見つける。 ・教師や友達と遊ぶ。 ・身近な人に親しみを持つ。	・教師や友達と遊ぶ中で、自分の思ったことや感じたことを言葉や行動で表現する。 ・色々な素材に触れ、試したり、工夫したりして使う。	・感じたことや考えたことを、友達と一緒に色々な方法で表現する。 ・友達と気持ちや力を合わせて活動する。	・友達と一緒に遊びに必要なものを考え、相談しながら遊びを進める。 ・自分の役割を最後までやり遂げる。	・自分たちで目的や見通しを持って活動し、課題を解決しようとする。 ・みんなで気持ちを合わせてやり遂げた充実感を味わう。

「生活や遊びの中の協同性」や「ごっこ遊び」	●園生活のきまりを守る		●遊びや生活の中でのルールを創り出す		
	●協力して当番活動や清掃活動に取り組む		●行事に向かって取り組む		
	●遊びに使うものや片付けに、友達と取り組む		●遠足マップを作成		
	●遊びに必要なものを友達と協力して作る				
	●困ったことについて話し合う				
	●友達同士で教え合う				
	●花や野菜をみんなで育てる				
	●誕生会の司会の持ち方や役割分担を自分たちで決める				
	●遊具や用具を共有したり、交代したりして使う				
	○鬼ごっこ(色鬼, 高鬼, 氷鬼など)				
	○おうちごっこ	○かたつむりになって遊ぼう	○お店屋さんごっこ	○一年生ごっこ	
	○ヒーローごっこ	○海ごっこ	○運動会ごっこ	○郵便屋さんごっこ	
	○探検ごっこ	○ハンターごっこ	○レジごっこ	○劇ごっこ	○学校ごっこ
	○色水遊び	○泥遊び	○マグネット釣り	○海賊ごっこ	○豆まき
	○ままごと	○秘密基地作り	○バスごっこ	○動物園ごっこ	○お遊戯会ごっこ
○先生ごっこ	○せっけん遊び	○集団での運動遊び(ドッジボール, 箱積み競争, リレー等)			
○砂場遊び(協力して山を作る)	○お祭りごっこ	○木の実ケーキ作り	○変身マラソン		

VI 指導の実際・仮説の検証

1 検証保育 I

(1) 保育計画

うるま市具体的実践 3 項目

①聞く・話す力を育てるための保育実践 ②好奇心・探究心を育む環境構成 ③規範意識の芽生えを培う保育実践

時	月 日	保育活動	ねらい	人とのかかわりにおける発達との関連	★環境構成◎教師の援助
1	11月4日 (水) 11月5日 (木) 11月6日 (金)	『いいところさがそう』 ・友達の得意なことや、いいところを探し、発表する。 絵本 「はっぴいさん」 「フレデリック」 「かみさまからのおくりもの」	・友達のよさに気づき、伝える喜びを味わう。 ・褒められる喜びを味わったり、自己肯定感を感じたりする。	・十分な自己発揮と他者の受容による自己肯定感の獲得 ・他者への多面的な視点 (実践3項目①)	◎モデルになって幼児一人一人のいいところを伝えたり、幼児から言葉を引き出したりしながら、全員が主人公になるようにする。 ★幼児一人一人のよさを壁面にして掲示したり、カードにしてプレゼントしたりする。
2	11月5日 (木)	『しょうひんづくり①』 ・身近にある素材を使って、友達と一緒に、食べ物に見立てた商品を製作する。 ・キャンディー作り	・友達と話し合ったり、アイデアを出し合ったりしながら製作して遊ぶ楽しさを味わう。	・自発性の獲得 (実践3項目②) ・協調性 (実践3項目①②③)	◎製作が苦手な子や、お店屋さんごっこに参加したことのない子を誘って、作れそうなものを一緒に作る。 ★簡単に作れそうな商品の材料を前もって準備しておく。(新聞紙、セロファン等)
3	11月6日 (金)	『しょうひんづくり②』 ・身近にある素材を使って、友達と一緒に、食べ物に見立てた商品やごっこ遊びに必要な物を製作する。 ・アイスクリーム ・プリン	・自分の考えを伝えたり、友達の考えを受け止めたりしながら遊ぶ楽しさを味わう。	・自発性の獲得 (実践3項目②) ・自己信頼性 (実践3項目①) ・協調性 (実践3項目①②③)	◎興味のなかった子や、お店屋さんごっこの経験がない子へ興味をもたせるような言葉かけをする。 ★製作に必要な素材を幼児と話し合って準備することで、ごっこ遊びの雰囲気を高めていく。
4	11月10日 (火)	『どんなお店屋さんがいい?』 ・どんなお店屋さんがいいのか話し合う。 ・お店屋さんごっこでのグループや役割を決める。 絵本 「3びきのこぶたのお店屋さんごっこ」	・自分がやってみたいことや、考えを自分なりの言葉で表し、お店屋さんごっこを想像する楽しさを味わう。	・自発性の獲得 (実践3項目②) ・自己信頼性 (実践3項目①) ・協調性 (実践3項目①②③) ・集団的な帰属性	◎幼児全員が話し合いに参加できるように絵本を導入として活用し、ごっこ遊びへのイメージが広げられるようにする。 ◎幼児一人一人の興味や得意なことを把握し、それを生かしながら、少人数で活動できるようにする。

5	11月11日 (水) 11月12日 (木)	『しょうひんづくり③ ④』 ・グループの友達と話し合ってお店屋さんに必要なものを作る。 ・折り紙製作 ・お金,財布作り ・看板作り	・友達と話し合ったり, アイディアを出し合ったりしながら製作して遊ぶ楽しさを味わう。	・自己信頼性 (実践3項目①) ・協調性 (実践3項目①②③) ・自己発揮 ・自己抑制 (実践3項目③)	★材料を準備し, 使いやすいように配置する。 ◎展開に行きづまっているような場合には, 「○○さんはどうしたいのかな?」など新しい展開を投げかける。
6	11月12日 (木)	『どんなへやにする?』 ・各グループのお店をどこに配置するのかを学級で話し合う。	・自分たちで遊びの場を作っていく楽しさを味わう。	・段取りを立てて見通す力 (実践3項目①②)	◎★幼児のアイディアや意見を尊重し, 折り合いをつけながら環境を構成していく。
7	11月13日 (金)	『プレオープン』 ・各お店のプレオープンを体験する。 ・グループの約半分の子が, お客さんの役割をする。	・本時の活動に見通しを持ちながら, 遊びを楽しむ。	・道徳性の芽生え ・自発性 (実践3項目②) ・数の理解 (実践3項目②) ・役割取得 ・規範意識の芽生え (実践3項目③)	◎幼児の頑張っている姿や, 工夫している姿を認め, 他児に知らせていく。 ◎本時への期待や仲間意識が高まるような言葉かけをする。
8 本時	11月16日 (月)	『お店屋さんごっこで遊ぼう』 ・前回お店屋さんを経験した子が, お客さんの役割をする。 ・お店の店員やお客さんになりきって, 役割を果たしたり, やり取りを楽しんだりする。	・役になりきったり, 役割を果たしたりしながら友達と一緒に遊びを進めていく楽しさを味わう。	・道徳性の芽生え ・自発性 (実践3項目②) ・数の理解 (実践3項目②) ・役割取得 ・規範意識の芽生え (実践3項目③) ・対人的な調整(相手に応じた言葉を使う) (実践3項目①) ・自己信頼性	◎前日(金曜日)までの取り組みや流れが思い出せるよう, 表示を活用して幼児と確認する。 ★お店屋さんの雰囲気に合わせて音楽や効果音を流す。 ◎教師も一緒に遊んだり, 必要に応じて個別に言葉かけしたりし, 楽しい雰囲気の中で遊びが進められるようにする。
9	11月17日 (火)	・前日の余韻を味わい, 続きをしたり, 役割を変えたりして遊ぶ。	・前日の余韻を味わい, 友達と一緒に遊びを楽しむ。	・役割取得 (他者の視点や感情, 視点を理解する能力)	★幼児が引き続き遊べるようごっこ遊びの場を確保したり, 商品作りができるように素材を準備したりする。

(2) 保育実践指導案Ⅰ

- ① 活動名 「お店屋さんごっこをして遊ぼう」
- ② ねらい 役になりきったり、役割を果たしたりしながら協同して遊ぶ楽しさを味わう。
- ③ 活動設定の理由

幼稚園教育要領「人間関係」において、「幼児が互いにかかわりを深め、共に活動する中で、みんなで作ってみたい目的が生まれ、工夫したり、協力したりするようになっていく。」と示されている。

5歳児の発達との関連性として、田中真介（2009）は「行事に合わせて役割分担をしたり、協力してやり遂げることに喜びを感じ、互いに教えあい助け合う力が育つ。」と述べている。

そこで、本学級の幼児が興味を持っているお店屋さんごっこを取り入れ、一人一人が自己発揮し、友達と相談しながら自発的に活動することで、幼児が互いのよさに気付き、協同して遊ぶ楽しさが味わえるだろうと考え、本活動を設定した。

ア 幼児の実態

10月に実施した幼児の遊びに関するアンケートの結果から、本学級の90%の幼児が1年以上の集団保育の経験があり、50%の幼児がごっこ遊びが好きだということが分かった。また、全体の75%の幼児が「満足するまで遊ぶ」という回答をしており、集中して遊びこむ経験を十分行ってきたことが分かった。しかし、葛藤体験を調査する項目においては「相手の意見を受け入れて遊ぶ」という幼児が35%と低く、自分の思ったことを相手に伝えたり、相手の思っていることに気付いたりするような体験が必要であるということが分かった。

イ 教材観

本活動は、人間関係の内容「(6) 自分の思ったことを伝え、相手の思っていることに気付く。」「(7) 友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。」「(8) 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。」環境の内容「(7) 身近な物や遊具に興味を持ってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。」を組み合わせ構成している。身近な素材や道具を使い、イメージを実現させていく中で、友達と考えを出し合ったり、工夫したりしながら「お店屋さんごっこ」という共通の目的に向かっていくことで、幼児自身が友達のよさに気付いたり、一緒に活動すること自体を楽しんだりし、次の活動意欲へとつながるだろうと考える。

ウ 指導観

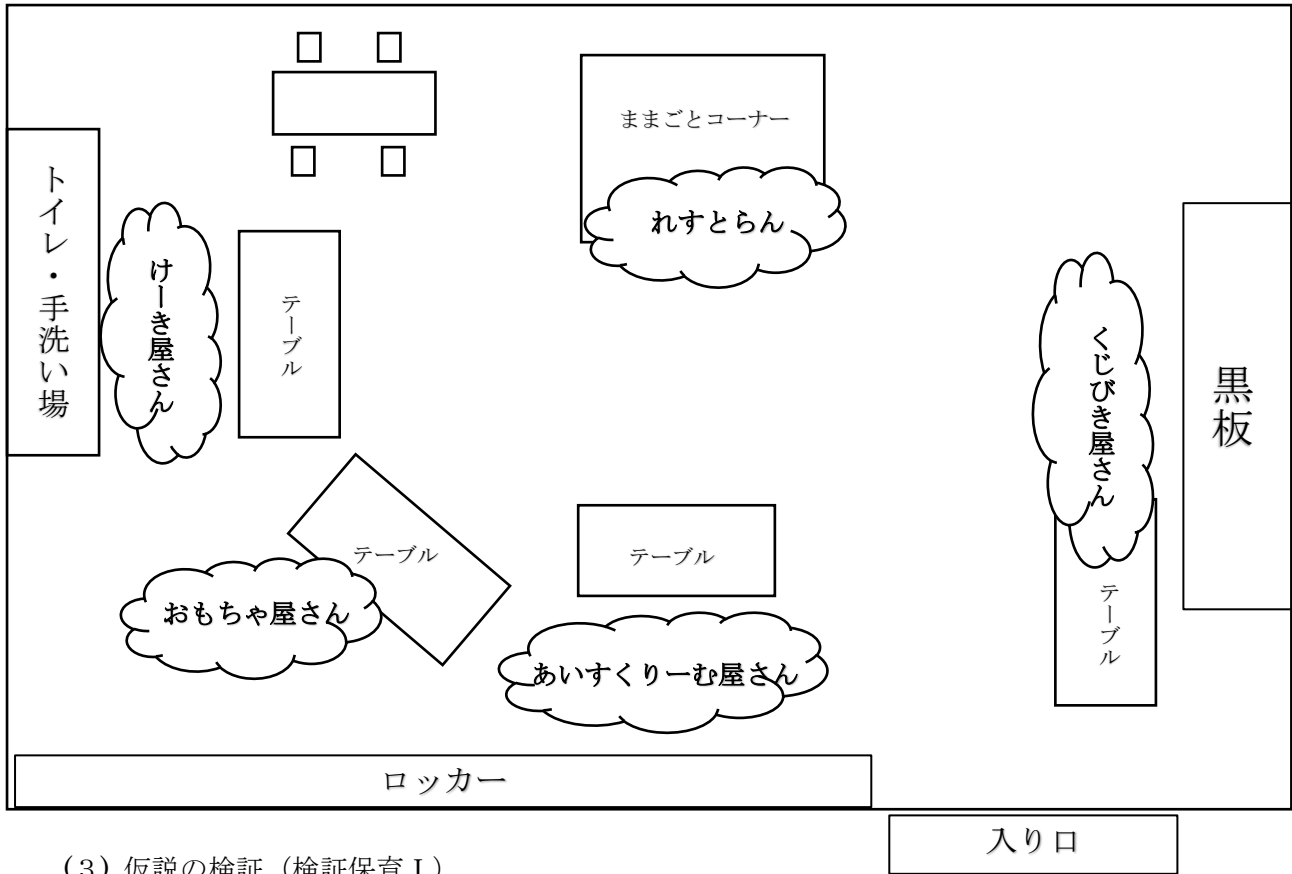
- (ア) 幼児の興味や意欲をもとに、少人数のグループを作って活動に取り組めるようにしたり、商品作りに必要な材料や作り方等についても各グループで話し合い、活動が進められるようにしたりしていく。
- (イ) 友達と過ごす楽しさを味わったり、自分の存在を感じたりできるように、幼児が作ることに夢中になっているときや、友達とかかわって遊びを進めているときは、幼児の発想を妨げないように見守ったり、観察したりする。
- (ウ) 葛藤体験は幼児にとって大きな学びの機会であると捉えるが、いざこざや言葉のやり取りが激しかったり、長い間続いたりしている場合には、教師が幼児の心のよりどころとなり、適切な援助をする。
- (エ) 幼児の作品を掲示したり、全体の場で紹介したりしていくことで、他の幼児の作品のよさに気付き、興味を持てるようにしていく。
- (オ) 活動後の振り返りでは、友達同士で工夫したことや困ったこと等を話し合い、新たなルールを作ったり、力を合わせたことを全体の場で認めたりしていくことで、友達と協同して遊ぶ楽しさを確認する場とする。

以上のように、教師も一緒に遊んだり、必要に応じて個別に言葉かけしたりし、楽しい雰囲気の中で遊びが進められるようにすることで、幼児が自己発揮し、自分の思ったことを友達に伝えたり、相手の思っていることに気付いたりしながら互いのよさに気付き、協同して遊ぶ楽しさを味わうことができるのではないかと考える。また、活動の振り返りを通して、工夫したことや、友達と力を合わせたことを共有することにより、次の活動の意欲へとつながるのではないかと期待する。

④ 本時の展開

指導案（本時）			
平成 27 年 11 月 16 日（月）うるま市立田場幼稚園 3 組 26 名（男児 15 名女児 11 名） 保育者 仲村 潮里			
幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・きらきらタイムで自分のいいところを友達に見つけてもらうことを喜んだり、友達のいいところや得意なことを積極的に探そうとしたりする姿が見られる。 ・戸外では、運動遊びに興味を持って取り組んでおり、目標を達成する喜びを味わったり、友達の頑張っている姿を認めたりする姿が見られる。 ・友達同士編み方を教え合いながら編み物をする子、木の実を使ったゲームで友達と競い合うことを楽しむ子、身近な素材を使って製作遊びを楽しむ子がいる。 ・意見が合わずにトラブルになると、自分の意見を押し通し、友達の思いに気付かないことがある。 		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・役になりきったり、役割を果たしたりしながら協同して遊ぶ楽しさを味わう。 		
<p>〈活動仮説〉</p> <p>ごっこ遊びの場において、幼児の興味・関心を捉え、実態に即した環境構成や、相手の思いに気付き受け入れたり、楽しさを共感したりできるような言葉かけの工夫をすることにより、役になりきったり、役割を果たしたりしながら、協同して遊ぶ楽しさを味わうことができるであろう。</p>			
時間	○予想される幼児の活動	◎教師の援助	*評価項目
9:00	○教師の話聞く。 ○事前に決めたそれぞれのお店の役割を確認する。	◎前日までの活動を振り返り、役割や流れ等を確認することで、本時の活動がイメージでき、スムーズに進められるようにする。	*興味や関心を持って教師の話聞いているか。
9:10	～お店屋さんごっこで遊ぼう～ ○各グループに分かれて、テーブルや椅子、商品などの開店準備をする。 ○お店の店員やお客さんになりきって、役割を果たしたり、やり取りを楽しんだりする。 ○気持ちの切り替えができずに遊びから抜けてしまう子がいる。	◎グループで協力して準備をする姿を見守り、楽しく遊びに取り組めるような雰囲気作りを心がける。 ◎教師も一緒になりきって遊ぶことで、遊びを盛り上げる。 ◎幼児の自発的なごっこ遊びを促すために、自由な発想やイメージを膨らませるような言葉かけを工夫する。 ◎遊びから抜けてしまう子へは、個別に対応する。	*友達とのやり取りを楽しんだり、協力したりして遊んでいるか。 *思ったことを伝えたり、友達の思っていることに気付いたりしていたか。
9:50	○使ったものを片付ける。	◎幼児のもっと遊びたい気持ちを受け止め、翌日も遊べるような環境にし、次への意欲になるような言葉かけをする。	
10:00	○教師や友達の話聞く。 ○感じたことや楽しかったことを発表する。	◎活動後の振り返りでは、友達同士で工夫したことや困ったこと等を話し合い、新たなルールを作ったり、力を合わせたことを全体の場で認めたりしていくことで、協同して遊ぶ楽しさを確認する。	*次の活動に期待が持てたか。
10:15			
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・役になりきったり、役割を果たしたりしながら協同して遊ぶ楽しさを味わうことができたか。 		

⑤ 環境構成



(3) 仮説の検証 (検証保育 I)

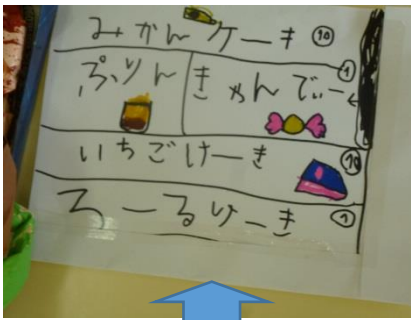
活動仮説

ごっこ遊びの場において、幼児の興味・関心を捉え、実態に即した環境構成や、相手の思いに気付き受け入れたり、楽しさを共感したりできるような言葉かけの工夫をすることにより、役になりきったり、役割を果たしたりしながら、協同して遊ぶ楽しさを味わうことができるであろう。

① 本時での学級全体の様子



レストランでは、当初の予定にはなかったが、席にテーブルを拭くための布巾やおしぼりが準備されていた。



文字を書く子と、絵を描く子がそれぞれ役割を分担してメニューを作っていた。



ありがとうって言うんだよ。

どうぞ。

ありがとうございます。

アイスクリーム屋さんでは、3人の店員がそれぞれ、カップを準備する・アイスを盛り付ける・客に手渡すという役割を分担して取り組んでいた。



いらっしやいませ〜。あいよ〜!



チーズバーガーもありますよ〜!

友達が大きな声でお客さまに呼びかけている姿から刺激を受け、モデルにしている様子が見られた。



早くしないと、お客さんが待ってる!



これはケーキ屋さんの商品だね。

協力して準備に取り組む様子が見られた。(生活面での協同性)

学級全体からの考察

学級全体から見た幼児の姿は、ほぼ全員が役になりきったり、役割を果たしたりしながら、協同して遊ぶ楽しさを味わっていた。

これは、①事前活動「きらきらタイム」で、自分のいいところや友達のいいところ、得意なことを共有化する場面を設定したこと。②幼児のアイデアをもとに出店するお店を決定し、環境構成の工夫を行ったこと。③幼児の思いを受け止め、励ましたり、協力してごっこ遊びを楽しんだりできるよう言葉かけを行ったこと。などの環境構成や、教師の言葉かけの工夫の成果であると考えられる。

さらなる「協同した遊び」を目指して、「お客さん」になりきるための工夫や、「お店の店員」として遊びを深めるために、衣装やお店の看板等の環境構成の工夫を図る必要がある。

② 抽出児の様子

おもちゃ屋さんである M 児と R 児のやりとり

導入の中での「店長は誰がやる？」という教師の投げかけに、M 児も R 児も同時に挙手をする。「2人で話し合って決めてほしい。」と、決め方については2人に任せた。すると R 児の方から「じゃんけんしよう。」と持ちかけたが、R 児が負けた途端、「いつも同じ人がやっている。」と、結果に納得がいかない様子で、準備にもなかなか取り組めなかった。



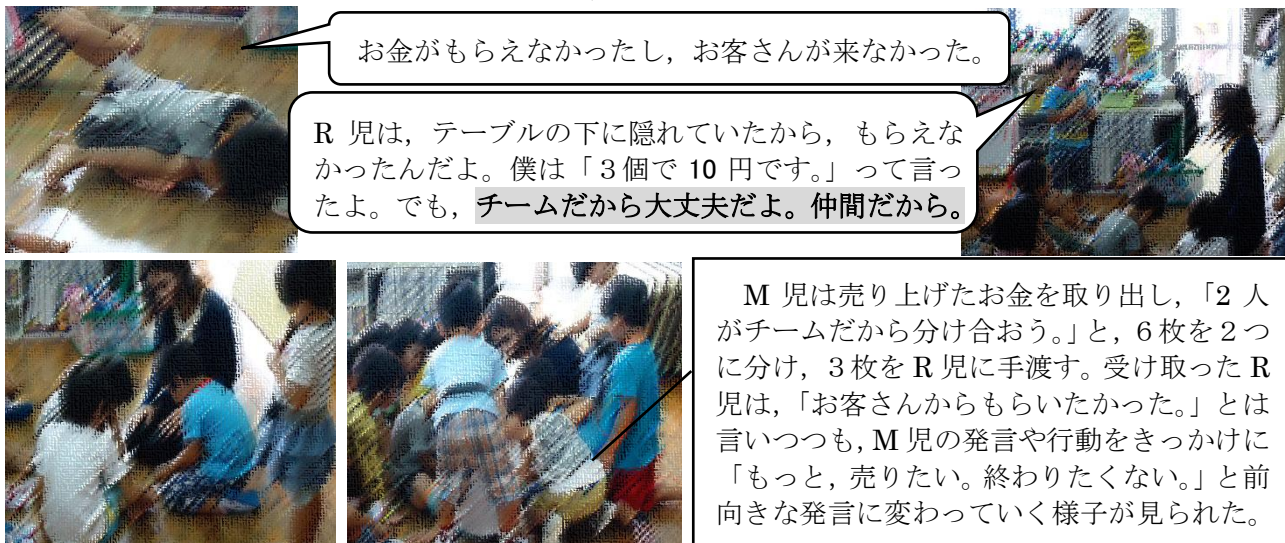
R 児が気持ちの切り替えができない中、M 児は黙々と準備の作業に取り掛かる。その間、テーブルの下にもぐったり、その場を離れたりする R 児に、「出てきて。」「一緒にやろう。」等、声掛けをしている。

教師の思い M 児は、R 児に自分の思いや考えを言葉で伝えてほしい。R 児は、葛藤を乗り越え、M 児の思いに気付きながら、一緒に遊ぶ楽しさを味わってほしい。

教師の援助 R 児のやる気につながるように、「M さんと一緒に店長をやるのは、どう?」「たくさん売れたら、また買い物ができるかもね。」と、言葉かけはするが、できるだけ幼児同士で解決してほしいので、M 児に「R さんに、どうすればお客さんがたくさん来てくれるのか教えてほしい。」と、2人がかかわるきっかけを作るようにする。



時々R児は、M児の声かけに応じて表に立つが、「3個で10円ですよ！」と積極的に接客し、商品売っていくM児の様子を見て「自分だけ、売れない。お客さんが来てくれない。」と、気分が乗らない。活動後の話し合いの場面で、「R児は、お客さんがあまり来なかったから楽しくなかったんだって。」という他児の言葉を受け、学級全体で考える場を設定した。



抽出児からの考察

話し合い活動の場を設定し、相手の思いに気付き受け入れたり、共感したりすることを体験させた。そのことによって、これまで、友達といざこざがあるとすぐに怒ったり泣いたりし、遊びから抜けてしまうM児であったが、R児と伝え合ったり、葛藤したりしながら活動の最後には「とっても楽しかった。お客さんじゃなくてずっとお店屋さんがしたい。」と、つぶやいていた。R児も、気持ちを切り替えたり、コントロールしたりすることについては課題が残るが、徐々に葛藤を乗り越えようとする姿が見られた。M児とR児の様子から、幼児が協同して遊ぶ楽しさを味わうための、手立ては有効であったと考える。

2 検証保育Ⅱ

(1) 保育実践指導案Ⅱ

- ① 活動名 「力を合わせて 郵便局を作ろう」
- ② ねらい 友達と共通の目的に向かって工夫したり、試したり、協力したりする楽しさを味わう。
- ③ 活動設定の理由
 - ア 幼児の実態（省略）
 - イ 教材観（省略）
 - ウ 指導観（省略）

(2) 保育計画と本時までの様子

時	月 日	保育活動	ねらい	子どもの様子・考察
1	1/13 (水)	『お手紙を書いてみよう ①』 ・保育室のお手紙コーナーで、好きな友達に手紙を書いてみる。 歌『やぎさんゆうびん』	・正月の雰囲気を楽しむ、年賀状に興味を持つ。	・手紙コーナーに興味を持ち、友達への手紙を一生懸命書いている。時々、分からない文字があると「た」ってどんな？」と確認したり、五十音表を見たりしながら手紙を書くことを楽しんでいた。

2	1/14 (木)	『お手紙を書いてみよう ②』 ・手紙を書いたり、配ったりする。 絵本『ゆかいなゆうびんやさん』	・手紙を書いたり、もらったりしながら友達とのやりとりを楽しむ。	・ある幼児から届いた手紙を全体の場で紹介した。「気持ちが文字に乗って、伝わった」と話すと、他の幼児も手紙で自分の気持ちを伝えようとするようになった。手紙をもらった時の嬉しさも味わっていた。
3	1/15 (金)	『お手紙を書いてみよう ③』 ・手紙を送るために必要な切手やはがきを、友達と一緒に作る。 絵本『おてがみちょうだい』 『おてがみで一す!』	・手紙を送るために必要な物に気付く、友達と工夫して作る楽しさを味わう。	・幼児と一緒に切手作りをすると、数名が興味を持って活動に加わった。製作する中で、好きな絵を描いたり、切り絵で切手を作ったりする等、アイデアを出し合いながら取り組んでいた。 ・友達が手紙を書いたり、切手を作ったりする様子を見て、男児数名が「郵便屋さんごっこをやろう」と思い付き、どんな役割をするかについて話していた。
4	1/18 (月)	『郵便局ってどんなところ?』 ・郵便局の仕事の流れを知る。 紙芝居 『ゆうびんのおしごと』	・郵便局の仕事や仕組みに興味を持つ。	・「3組にもお手紙がたくさんあるね。郵便屋さんがいればなあ…」という教師の言葉を受け、「やりたい!」と次々に手が挙がった。 ・読み聞かせを通して、郵便局にも色々な仕事があることが分かると、それぞれ自分がやりたい仕事(役割)を口にしていった。
5	1/19 (火)	『必要なものを考えよう』 ・郵便局を作るのに必要な物を話し合う。 ・郵便屋さんごっこに必要なものを製作するグループや、役割を決める。 絵本『おてがみ』 『かえるちゃんのゆうびん』	・やってみたいことや、考えを自分なりの言葉で表し、郵便屋さんごっこを想像する楽しさを味わう。	・前日の話し合いを受け、「建物を作りたい」「大きいポストを作りたい」と、作りたい物をイメージしたことで、たくさんの子が家庭からダンボールを持ち寄った。 ・役割やグループを決めると、主体的に製作活動に取り掛かっていった。 ・「友達と考えが違ったら、混ぜたものを作ればいい」と言う幼児がいる一方、考えが食い違くと黙って傍観したり、一人で製作に取り組んだりする子がいた。
6	1/20 (水)	『どんな物を作る?』 ・グループの友達と話し合い、どんなものを作るかや、必要な素材を話し合う。 絵本『あやかちゃんのゆうびんきょく』	・友達と話し合ったり、アイデアを出し合ったりし、伝え合う喜びを感じる。	・やりたいことが決まらない子に対し、「Kさんは絵が上手だから切手グループにおいで」と誘う子がいた。 ・建物グループは一人の子が張り切って取り組む中、他の子はあまり参加していなかった。 ・ポストグループでは、女児が合理的に作ろうとする一方、男児はイメージがなかなか実現できない様子で戸惑っていた。
7	1/21 (木)	『力を合わせて郵便局を作ろう①』 ・グループに分かれてポスト、建物、切手、衣装、小道具等を作る。	・イメージしたものを友達と一緒に作る楽しさを味わう。	・女児数名で作っていたポストが完成する。達成感を味わい、自信を持った女児たちが帽子作りのグループに加わり、アイデアを出しながら一緒に作っていた。 ・建物グループにどんどん男児が加わった。テープを切る、貼る、窓を作る等の役割に分かれて製作に取り組んでいた。

(3) 本時の展開

指導案（本時）			
平成 28 年 1 月 22 日（金）うるま市立田場幼稚園 3 組 26 名（男児 15 名 女児 11 名） 保育者 仲村 潮里			
幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> 好きな遊びの中で、こままわしをして友達と競い合ったり、まわし方のコツを教え合ったりして遊んでいる。 カルタやすごろくなどの、正月遊びに興味を示して取り組んでおり、正月の雰囲気を楽しんでいる。 お手紙コーナーでは、書ける文字を自分で書こうとしたり、ひらがなスタンプやシールを使ったりしながら、友達に手紙を書くことを楽しんでいる。 		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 友達と共通の目的に向かって工夫したり、試したり、協力したりする楽しさを味わう。 		
<p>〈活動仮説〉</p> <p>郵便屋さんごっこに必要な衣装や小道具を製作する場において、幼児が作りたいものを実現できるような素材や用具を、幼児と一緒に準備し、手に取りやすいような環境構成の工夫をし、幼児なりに取り組んでいる姿を認めたり、励ましたりすることにより、幼児が互いに認め合い、協同して遊ぶ楽しさを味わうことができるであろう。</p>			
時間	○予想される幼児の活動	◎教師の援助	*評価項目
9:30	○教師の話聞く。 ○前日までの取り組みを確認する。	◎前日までの活動を振り返り、役割や流れ等を確認することで、本時の活動がイメージでき、スムーズに進められるようにする。	*興味や関心を持って教師の話聞いているか。
9:40	<p>～力を合わせて郵便局を作ろう②～</p> <ul style="list-style-type: none"> ○テーブルや椅子、素材などの準備をする。 ○各グループに分かれて、友達と一緒に、「郵便屋さんごっこ」に必要な衣装や小道具の製作をする。 ○用具や素材を工夫して使う。 ○気持ちの切り替えができずに遊びから抜けてしまう子がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎グループで協力して準備をする姿を見守り、楽しく製作活動に取り組めるような雰囲気作りを心がける。 ◎各グループの取り組みに応じて認めたり、励ましたりする。 ◎幼児の自発的な活動を促すために、自由な発想やイメージを膨らませるような言葉かけを工夫する。 ◎展開に行きづまっているような場合には、「○○さんはどうしたいのかな？」など新しい展開を投げかける。 ◎遊びから抜けてしまう子へは、個別に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> *友達とのやり取りを楽しんだり、協力したりして製作活動に取り組んでいるか。 *思ったことを伝えたり、友達の思っていることに気付いたりしていたか。
10:15	○使ったものを片付ける。	◎幼児のもっと作りたい気持ちを受け止め、翌日も続きができるような環境にする。	*自信を持って作ったものを紹介したり、友達の作品のよさに気付いたりしていたか。
10:25	○教師や友達の話聞く。 ○作ったものを他のグループに紹介する。 ○感じたことや楽しかったことを発表する。	◎活動後の振り返りでは、友達と力を合わせたことや、工夫したこと等を聞き出し、新しいアイデアを思いついたり、他の幼児のよさに気付いたりするような、学び合いの場にしていく。	
10:40		◎自分なりの言葉でうまく表現できない子は、教師が代弁し、他の幼児にも頑張りを見せていく。	
評価	<ul style="list-style-type: none"> 友達と共通の目的に向かって工夫したり、試したり、協力したりする楽しさを味わうことができたか。 		

(4) 仮説の検証(検証保育Ⅱ)

活動仮説

郵便屋さんごっこに必要な衣装や小道具を製作する場において、幼児が作りたいものを実現できるような素材や用具を、幼児と一緒に準備し、手に取りやすいような環境構成の工夫をし、幼児なりに取り組んでいる姿を認めたり、励ましたりすることにより、幼児が互いに認め合い、協同して遊ぶ楽しさを味わうことができるであろう。

① 本時での学級全体の様子



～建物グループ～

窓の取っ手のつけ方を、話し合いながら取り付けたり、1つのダンボールを3人で切ったりするなど、役割を分担したり、協力したりしながら活動していた。何度も本を開いて、載っている建物を見ながら作るというイメージの共有化を図りながら活動を進めていた。



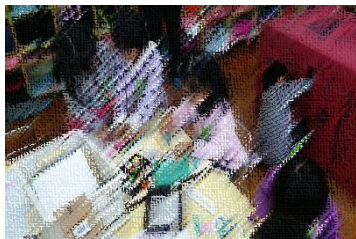
～切手・はがきグループ～

几帳面な子の紙の切り方を「すごい。」と褒めたり、切手に描いた絵を「可愛いね。」「自分も描いてみよう。」と真似したりしていた。和気藹々と会話をしながら、切手やはがきを作る、活動そのものを楽しんでいた。



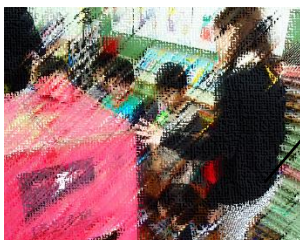
～帽子グループ～

2人が共に「丸く立体的な帽子を作りたい」というイメージを持ち、紙の幅を小さく切って微調整したり、何度も被り、大きさや被り心地を確認したりするなど、工夫しながら作業していた。



～スタンプグループ～

食品トレーや段ボール等、身近な素材を使って好きなデザインのスタンプを作り、様々な模様が写る様子を楽しんでいた。本時は、元々切手グループやポストグループにいた子たちが数名、お手伝いとして加わっていた。



～ポストグループ～

大きさや色の塗り方、ポストの仕組み等について、何度も話し合い、「大きくて投函口が2つあるポストを作りたい」という共通のイメージを持ち、製作に取り組んでいた。他のグループを見て回り、アイデアを取り入れながら作業を進めていた。

学級全体からの考察

前回の検証保育では取り入れていなかった「衣装や小道具」を、自分たちで作る場を設けた。数名の男児から「郵便屋さんごっこがしたい。」というつぶやきを拾い、学級全体に投げかけ、作りたい物について話し合ったり、必要な素材を幼児中心に収集したりすることで、『郵便局を作る』という共通の目的に全員で向かうことができた。

作るものは学級の話し合いによって決め、小グループでの活動になったが、どのグループで活動するかは幼児自身で考えて自由に組み立てるようにした。そのことによって、興味のある製作に進んで取り組んだり、お手伝いとして他の活動に加わったりし、アイデアを出し合いながら工夫して作る楽しさを味わっていた。

活動後の振り返りでは、各グループの取組を見せ合い、全体で頑張りを認め合う場とした。「すごいね。」「僕もやってみたい。」と、友達のよさに気付いたり、意欲につながったりする他、「取っ手をつけた方が開けやすいよ。」「手紙を入れるところ(投函口)が低すぎない？」等、意見を出し合い、話し合いの深まりが見られた。

② 抽出児の様子

スタンプ作りをするM児とS児のやりとり

M児は、製作遊びが好きで、絵や文字を書くことが得意である。集団生活の経験がなく、初めてのことに苦手意識が強い。集団での遊びにもなかなか入れず、教師について過ごすことが多かった。

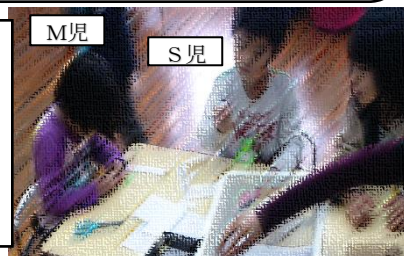
S児は明るく素直で、物知りな一面がある。しかし、遊びや生活の中で、つい、世話好きな女の子に甘えてしまうことが多く、なかなか自信が持てなかった。

教師の思い M児は、友達のよさや思いに気付き、自分の気持ちを伝えながら、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わってほしい。S児は、友達とかかわる中で認められる経験をし、自信を持って行動してほしい。

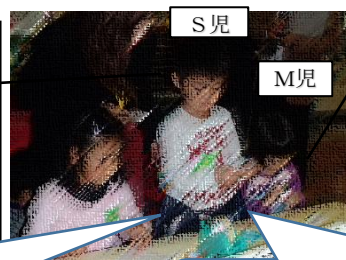
教師の援助 M児が安心して活動できるように時折声をかけたり、見守ったりし、友達とかかわっている場面を見逃さず、「楽しいね。」と言語化する。S児は得意なことをいかしたり、友達に教えたりするきっかけを作るようにする。



①導入でM児は、教師の話を静かに聞き、S児は教師の「協力してがんばりましょう。」という言葉に反応し、何度かうなづく。前日まで切手グループで活動していた二人だが、「今日はお助けをする。」と、スタンプグループに加わる。



②S児は、後からグループに加わった友達に、スタンプの作り方を教えている。M児をはじめ、特別な支援を要する子へも「上手だね。」「こうすればいいよ。」と声をかけたり、机上进行き整理するなどの気配りをしたりしていた。



③作業開始10分程は、一人で黙々と製作し、教師としかかかわらなかったM児だが、S児の優しさに触れ、「Sさんは優しいから、これあげるよ!」と、スタンプの土台を切り取ってS児に手渡す。

教師の言葉かけ～S児～

「みんなに声をかけたり、教えたりしてくれてありがとうね。」

教師の言葉かけ～M児～

「友達と一緒にやると、楽しいね。」
「Sさんも、Mさんに優しくしてもらえて喜んでいと思うよ。」



④S児「何色がいい？」M児「黄色かな。」と、相談しながら楽しい雰囲気の中で製作している。M児はS児が作ったものを見て、「たくさん作ったね!たくさん作ったから、上手になったんだね。」とS児のよさや頑張りを認める言葉かけをしていた。



抽出児からの考察

S児に「友達にスタンプの作り方を教える」という役割を任せることで、S児は積極的に友達にかかわり、周りの幼児もS児の優しさに触れ、幼児同士がかかわって一緒に活動を進める楽しさを味わうことができた。また、友達と一緒に製作活動に取り組むことで、工夫する楽しさを味わったり、上達する喜びを感じたりする様子が窺えた。M児がS児と活動する中で、S児に認めもらうことにより、S児のよさにも気付き、さらにS児に対しての共感や思いやりのある行動へとつながったのではないかと考える。

活動後の振り返りでは、S児が「みんなで協力して頑張った。作るのが楽しかった。」と堂々と話しており、今回の活動を通して、S児の自信へもつながったと考えられる。

以上のことから、幼児の友達とのかかわりを重視した教師の援助や環境構成等、幼児が協同して遊ぶ楽しさを味わうための、手立ては有効であったと考える。

(5) 検証後の様子

製作した衣装を身に着けたり、小道具を使用したりし、郵便屋さんごっこが展開された。「手紙をたくさん配りたい。」という思いから、これまでお手紙コーナーにあまり興味を示さなかった幼児も、手紙を書こうと意欲的になった。また、実際に郵便屋さんごっこをすることで、帽子やかばんの取り合いによるいざごさは起こったものの、「みんなでできるように、もっとたくさん作ろう。」と、必要性を感じたものを友達と話し合いながら、作り足そうとする様子が見られた。ごっこ遊びの中でも、役割を分担したり、交代したりして遊び、一人一人の表情から満足感や充実感を感じられた。様々な形で「郵便屋さんごっこ」に携わり、一体感を味わって活動していた。



VII 成果と課題・対応策

1 成果

- (1) 幼児の興味・関心や発達に即した内容のごっこ遊びを、幼児を中心に学級全体に発信することで、幼児が主体となって材料を集めたり、身近な素材を使って遊びに必要なものを製作したりするなど、共通の目的を実現させるための過程を充実させることができた。
- (2) ごっこ遊びを通して、幼児同士が互いの個性や頑張り等のよさに気付き、認め合うことで、幼児一人一人が遊びを楽しみながら自分らしさを発揮することができていた。
- (3) 教師が幼児一人一人の発達や、人とのかかわりの経験の違いを把握し、個に応じた承認や共感、励まし、感情の言語化などの言葉かけを行うことで、学級の仲間との製作活動や、ごっこ遊びに意欲的に取り組む姿が見られた。

2 課題と対応策

- (1) より協同的に遊ぶ子を目指して、自分の気持ちをコントロールしたり、相手の気持ちを理解したりできるような機会をこれからも設定していく。
- (2) 幼児の発達を促すごっこ遊びや協同的な遊びを、年間計画に位置づけ、幼児の育ちが感じられるよう、計画的な環境構成の工夫を図っていく。

〈参考文献・引用文献〉

- 文部科学省 平成 20 年 10 月 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館
国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成 25 年 10 月 『幼児期から児童期への教育』 ひかりのくに
岸井勇雄 無藤隆 柴崎正行 2012 『発達の理解と保育の課題』 同文書院
岸井勇雄 無藤隆 柴崎正行 2015 『保育内容・言葉』 同文書院
田中真介 2009 『発達がわかれば子どもが見える』 榊ぎょうせい
大豆生田啓友 2015 『「子ども主体の協同的な学び」が生まれる保育』 Gakken
今井和子 1995 『なぜ ごっこ遊び?』 フレーベル館
無藤隆 2013 『幼稚園教育要領ハンドブック』 Gakken
無藤隆 2013 『幼児教育のデザイン』 東京大学出版会
神谷友里 吉川はる奈 2011 『幼児の役割遊びにおける役割取得の特徴に関する研究—5 歳児のごっこ遊びの成立過程—』